

1. 科目名 (単位数)	心理学統計法/心理統計法 (2単位)		3. 科目番号	PSMP1120
2. 授業担当教員	新井 洋輔			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「統計学」の単位を履修していること。			
7. 講義概要	<p>心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト(SPSS)を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p>			
8. 学習目標	<p>代表的な統計処理について自ら統計ソフト(SPSS)を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト(SPSS)を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。 			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	毎回の演習内容についての予習と、自宅での復習が必須となるため、本シラバスの事前学習・事後学習の内容を熟読して臨むこと。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 岸学著『SPSSによるやさしい統計学(改訂版)』オーム社。</p> <p>【参考書】 山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準： ①研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができるか ②データに合った解析法を選択できるか ③選択した解析法を、統計ソフト(SPSS)を使って実施し、結果を読み取ることができるか ④解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができるか</p> <p>○評定の方法： 受講態度・演習への取り組み、期末レポートから総合的に評価する。 授業への参加・受講態度：30% 課題達成・レポート：40% 小テスト：30%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>春期の「統計学」「情報処理演習Ⅰ」「文章表現」に継続する内容ですので、しっかり復習してから臨んでください。なお、遠隔講義の場合や皆さんの理解度・達成度によっては講義内容を変更する場合があります。わからないことについては、講義内またはオフィスアワーでの質問を歓迎します。なお、演習の課題への取り組みを評価しますので、欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語・居眠りは減点の対象となります。初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。</p>			
13. オフィスアワー	授業時間内に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション：受講契約	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく。	
		事後学習	情報処理室の利用可能時間を調べ、大学所定の手続きに従ってコンピュータを操作する。	
第2回	「統計学」達成度確認テスト	事前学習	春期の「統計学」の講義内容(尺度水準・記述統計・推測統計)について復習しておく。	
		事後学習	達成度確認テストの中で理解度が足りなかった点について、「統計学」の教科書・資料で十分に知識を補完する。	
第3回	データの入力と尺度水準:Excel・データの変換と整形:Excel→SPSS	事前学習	春期「情報処理演習Ⅰ」におけるエクセルの基本操作を復習するとともに、教科書「統計解析の準備をする」を熟読しておく。	
		事後学習	教科書にある仮想データを入力し、SPSSのデータに変換する。	
第4回	レポート報告の基本的なルールについて	事前学習	大学発行のメールアドレスのIDおよびパスワードを確認し、テスト送信しておくこと。	
		事後学習	エクセルファイルを添付し、テストメールを送信する。	
第5回	1変数の記述一度数分布・代表値・散布度	事前学習	教科書「記述統計 データをわかりやすく表現する」を熟読しておく。	
		事後学習	講義内で扱った変数以外について代表値と散布度を求めるとともに、グラフで出力する。	

第6回	統計的仮説検定の意義	事前学習	春期の「統計学」で学習した統計的仮説検定（z検定およびt検定）の内容を復習しておく。
		事後学習	講義内で配布するレジュメに沿って「統計的仮説検定」の手順をまとめる。
第7回	関係の分析1－相関係数と無相関検定1：解析と読み取りの基本手順－	事前学習	「第8章 関係を分析する」の「間隔・比率尺度同士の関係（pp. 103～）」を熟読しておく。
		事後学習	講義で扱った「学習意欲得点」以外について相関係数を算出してエクセルの表にまとめる。
第8回	関係の分析3－2×2のクロス集計表におけるφ係数の算出と χ^2 検定－	事前学習	「第8章 関係を分析する」の「名義尺度同士の関係（pp. 122～）」を熟読しておく。
		事後学習	講義で扱った変数以外の組み合わせについて χ^2 検定結果とφ係数を報告にまとめる。
第9回	関係の分析4－2×3のクロス集計表におけるVの算出と χ^2 検定後の残差分析－	事前学習	「第8章」の「名義尺度同士の関係」（前回箇所+p. 131 クラメールのV）を熟読しておく。
		事後学習	講義で扱った変数以外の組み合わせについて χ^2 検定結果とVを報告にまとめる。
第10回	差の分析1：対応のないt検定	事前学習	「第9章 差を分析する」を熟読し、検定の選択のチャート図を理解するとともに「対応なしのt検定」の手順を把握しておく。
		事後学習	「使用教材」によって「試験2回目」に有意な差がみられるか検定を実施し報告にまとめる。
第11回	差の分析2：対応のあるt検定	事前学習	「第9章」の「差を分析する」のうち、「対応ありのt検定」の手順を把握しておく。
		事後学習	「試験2回目」と「試験3回目」に有意な差がみられるか検定を実施し、報告をまとめる。
第12回	差の分析3：対応のない一元配置分散分析と多重比較	事前学習	「第10章」の「差を分析する（分散分析法）」（教科書 pp. 159～）のうち、一要因分散分析の手順を把握しておく。
		事後学習	「3つの部署」で「試験1回目」に差があるかを検定し、結果を報告にまとめる。
第13回	差の分析4：対応のない一元配置分散分析と多重比較	事前学習	「第10章」の「差を分析する（分散分析法）」（教科書 pp. 159～）のうち、一要因分散分析に続く多重比較の意味と手順を把握しておく。
		事後学習	「3つの部署」で「試験1回目」に差があるかを検定し、多重比較（tukeyのHSD法）の結果を含めた報告をまとめる。
第14回	差の分析5：対応のある一元配置分散分析と多重比較	事前学習	「第10章」の「差を分析する（分散分析法）」（教科書 pp. 159～）のうち、対応のある一要因分散分析の手順を把握しておく。
		事後学習	講義内で指示した以外の変数について一要因分散分析を実施し、報告にまとめる。
第15回	統計データの読み取りとは	事前学習	新聞記事など、身近にある統計データを根拠とした議論を用意する。
		事後学習	「科学的報告におけるクリティカル・シンキングの意義」について400字にまとめる。